下唇に発生した脂肪腫の1例

刀 根 功・松田耕策・手島貞一

Lipoma in the lower lip: Report of a case

Isao TONE・Kousaku MATSUDA・Teiichi TESHIMA

Abstract: The Lipoma is one of the most common and most widely disseminated mesenchymal tumors found in the human body, but is rarely found in the oral regions.

In this paper, a 44-year-old woman with lipoma in the right lower lip was reported, and 157 cases of lipoma in the oral regions that have been reported in Japan were discussed.

The patient visited the Tohoku University Hospital of Dentistry with the chief complaint of a tumor in the right lower lip.

No abnormalities were observed in the patients past or family history.

She first noticed a rice grain sized tumor in the lower lip about five years ago, and the tumor gradually increased in size thereafter.

Oral examination revealed that the tumor was well circumscribed, thumb tip-sized, elastic soft in consistency and yellowish red in colour.

The tumor was clinically diagnosed lipoma and resected under local anesthesia.

The specimen was a spherical, encapsulated, soft, yellowish mass measuring 22×17×12 mm.

Microscopically, the tumor consisted of matured adipose tissue, therefore histopathological diagnosis of the tumor was simple lipoma.

1 year postoperatively there is no sign of recurrence.

Key words: lipoma, lower lip, review of literature

緒 言 症 例

脂肪腫は、脂肪細胞からなる非上皮性良性腫瘍で、生理的に脂肪組織の存在するすべての部位に発生し、頸部、背部、臀部などの皮下組織に好発する。しかし、口腔領域においてはその発現は比較的まれであり、特に口唇では、きわめてまれであるとされている。

今回、われわれは右下唇に発生した脂肪腫の1例を経験したので、その概要を報告する。

患 者： 44歳 女性。

初 診：昭和59年3月 日。

主 訴：右下唇部の腫瘍。

既往歴および家族歴：特記事項はない。

現病歴：昭和54年3月頃、4相当部下唇粘膜下に米粒大の腫瘍の存在に気づいたが、無痛性のため放置。その後、腫瘍は漸次増大し、咀嚼時に同部を咬むようになってきたため、昭和59年3月 日某病院を受診し当科を紹介され来院した。

現 症

全身所見：体格は中等度、栄養状態良好。

局所所見：顔貌は左右対称であるが、右側下唇に、境界明瞭で、母指頭大の腫瘍がみられ、表面は正常色を呈し、びらん、潰瘍は認められない（写真1）。触診では、弾性軟で圧痛はなく、所属リンパ節に異常は認められな

東北大学歯学部第2口腔外科学教室
(主任：手島貞一教授)

The Second Department of Oral Surgery, School
of Dentistry, Tohoku University (Chief: Prof.
Teiichi Teshima)

受付日：昭和60年6月26日

写真 1 初診時腫瘍所見

写真 4 摘出物剖面所見

写真 2 手術時所見

写真 5 病理組織所見

写真 3 摘出物所見

摘出物所見：腫瘍は類球形を呈し、大きさは $22 \times 17 \times 12$ mm, 表面は滑沢で、薄い被膜に覆われ、色は淡黄色、硬さは弾性軟で、重さは 2.2 g であった(写真3)。剖面は淡黄色で、充実性を呈していた(写真4)。

病理組織学的所見：腫瘍は、成熟した脂肪細胞の腫瘍性増殖よりなり、間質として小血管とわずかに線維性結合組織が認められた。腫瘍細胞には異型性などの悪性所見は認められなかった(写真5)。

病理組織学的診断：脂肪腫。

考 察

脂肪腫が、口腔領域に発生することは比較的まれであるとされており、Visscher¹⁾は851例の脂肪腫中、口腔領域のものは2.2%にすぎないと述べている。同腫瘍が口腔内良性腫瘍の中で占める頻度は、外国²⁻⁵⁾および本邦⁶⁻¹³⁾の報告でも、およそ1～3%の範囲内であった。

われわれが今回渉猟し得た1935～1984年の50年間に本邦で報告された口腔領域に発生した脂肪腫のうち、年齢、性別、発生部位が明らかなものは157例であったが、それについて検討を加える。

い。

臨床検査成績：一般血液検査、生化学検査に異常所見は認められない。

臨床診断：脂肪腫。

処置ならびに経過：昭和59年3月■日、局麻下に、右側下唇粘膜に切開を加えたところ、腫瘍は明瞭な被膜に覆われ、周囲組織との癒着は認められず、周囲組織を鈍的に剝離し、腫瘍を一塊として摘出した(写真2)。切開創はナイロン糸にて縫合し閉鎖した。

表 1 口腔領域に発生した脂肪腫の年齢別、性別による症例数
(1935～1984年本邦報告例)

性別 \ 年齢	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	5	3	1	10	13	13	18	5	1	69
女	9	4	5	13	8	18	20	11	0	88
計 (%)	14 (9)	7 (45)	6 (4)	23 (15)	21 (13)	31 (20)	38 (24)	16 (10)	1 (0.5)	157 (100)

表 2 口腔領域に発生した脂肪腫の発生部位別症例数
(1935～1984年本邦報告例)

発生部位	症例数	%
頬 粘 膜	40	37
頬 部	18	
舌	27	17
口 底	16	10
顎 下 部	11	7
口 蓋	11	7
歯 肉	10	6.5
歯肉頬移行部	9	6
口 唇	6	4
オトガイ部	5	3
そ の 他	4	2.5
計	157	100

表 3 本邦における口唇に生じた脂肪腫の報告
(1935～1984年)

年代	報告者	年齢	性別	発生部位	大 き さ	病理組織診断
1935	横井他	68	女	下唇	粟粒大	脂肪腫
1973	庄内他	45	男	下唇	示指頭大	脂肪腫
1980	倉地他	54	女	下唇	2.2×2.0×1.8 cm	脂肪腫
1980	野村他	65	男	下唇	(不明)	脂肪腫
1981	中村他	64	女	上唇	4.5×3.5×3.3 cm	脂肪腫
1984	自験例	44	女	下唇	2.2×1.7×1.2 cm	脂肪腫

表 4 外国における口唇に生じた脂肪腫の報告
(1949～1982年)

年代	報告者	年齢	性別	発生部位	大 き さ	病理組織診断
1949	Quinn	41	男	下唇	(不明)	脂肪腫
1956	Turner	74	男	下唇	3.0×3.0 cm	脂肪腫
1959	Simpson	69	男	下唇	2.0 cm	脂肪腫
1959	Simpson	56	女	下唇	3.0 cm	脂肪腫
1961	Colby	不明	不明	下唇	(不明)	脂肪腫
1961	Orlean	65	男	下唇	2.0 cm	線維脂肪腫
1964	Bertellie	43	女	下唇	0.5 cm	脂肪腫
1964	Bertellie	39	女	下唇	1.0 cm	脂肪腫
1966	MacGregor	68	女	下唇	(不明)	脂肪腫
1966	MacGregor	63	男	下唇	(不明)	線維脂肪腫
1976	McAndrew	72	男	下唇	2.5×1.5 cm	脂肪腫
1981	Allavd	69	女	下唇	1.0 cm	脂肪腫
1982	Corvell	48	男	下唇	1.5 cm	脂肪腫
1982	Visscher	41	男	下唇	0.8 cm	脂肪腫
1982	Visscher	66	女	下唇	1.5 cm	脂肪腫
1982	Visscher	68	男	下唇	0.7 cm	脂肪腫
1982	Visscher	44	男	下唇	1.5 cm	脂肪腫
1982	Visscher	63	女	上唇	1.0 cm	脂肪腫

性差では、男性が69例であるのに対し女性が88例で、女性にやや多くみられた(表1)。

年齢についてみると、157例中生後40日¹⁴⁾より80歳¹⁵⁾にわたり、60歳代が38人(24%)と最も多く、次いで50歳代31人(20%)、30歳代23人(15%)、40歳代21人(13%)と、30歳代以上の中高年層に好発する傾向がみられた。しかしながら、30歳未満の若年層でも27人(17.5%)に発現が認められ、脂肪腫は比較的広い年代にわたって発生しているといえる(表1)。

発生部位では、頬部ないし頬粘膜が58例(37%)と最も多く(報告例の頬部および頬粘膜の定義が明瞭でないためほぼ同一部位とみなした)、次いで舌27例(17%)、口底16例(10%)、以下、顎下部、口蓋、歯肉頬移行部、歯肉、口唇、オトガイの順であった(表2)。

口唇に発生したものは非常にまれであり、自験例を含めてわずか6例にすぎなかった^{8,17-20)}(表3)。年齢は、44~68歳までで、性別は男性2例、女性4例と女性に多く、部位別では、下唇5例、上唇1例と下唇に多くみられた。また、大きさは粟粒大から鶏卵大までであった。

一方、外国における口唇に発生した脂肪腫の報告例は、われわれが渉猟した範囲では、Quinn²¹⁾の報告例をはじめ18例にすぎなかった(表4)^{1,3,4,22-27,35)}。

年齢は、39~74歳に及び、男性10例、女性7例(1例性別不明)、と男性に多く、部位別では、下唇17例、上唇1例とほとんどが下唇に発生していた。また、大きさでは、米粒大からくるみ大までで小指頭大のものが多かった。

本腫瘍は一般に単発性であるが、舌に両側性、あるいは多発性に発現した症例も報告されている^{7,14-16)}。

また、自覚期間は数週間から数十年にわたるものまで多様であるが、発育が緩慢で疼痛や機能障害が少ないことなどにより、比較的長期間にわたるものが多い^{17,28)}。

組織学的に本腫瘍は、成熟した脂肪組織よりなり、結合組織索で分葉状に分かれていることが多いが、周囲組織との関係から正常の脂肪組織と区別される²⁹⁾。間質の性状によって単純性脂肪腫、線維性脂肪腫、粘液性脂肪腫、化骨性脂肪腫、血管拡張性脂肪腫等に分類されている³⁰⁾。本症例を含め、本邦の口唇に発生した脂肪腫の報告例6例すべてが単純性脂肪腫であり、また外国の18例では、2例が線維性脂肪腫で、他は単純性脂肪腫であった。

本腫瘍の組織発生については、組織異所発生説、および過形成説があげられ^{31,32)}、その成因として外傷^{3,5)}、慢性的刺激^{22,33,34)}、遺伝的素因^{35,36)}、内分泌の失調³²⁾などが考えられている。

本症例では、組織発生については不明であるが、3が唇側転位しており、患者が腫瘤に気がつく以前より頻回に下唇を誤咬していたことなどから、慢性的刺激が成因である可能性が示唆された。口唇においては、上下歯列

の関係からこのような慢性的刺激は、上唇に比して下唇に加えられることが多く、脂肪腫の大多数が下唇に生じていることから、慢性的刺激が脂肪腫の発生に何らかの関連をもっていると考えられる。

臨床診断としては、本症例の如く表在性の脂肪腫は、その特徴的な臨床所見より比較的鑑別が容易であるが、深在性のものでは、類皮嚢胞、類表皮嚢胞などの嚢胞性疾患や、良性腫瘍との鑑別が難しいとされてきた³⁷⁾。しかしながら近年、久保倉ら³⁸⁾によって、CTX線撮影がその鑑別に非常に有効であることが報告されている。

治療法は、一般に全摘出が行われ、予後は良好であるとされている。

本症例は、腫瘍の全摘出を行い、術後1年を経過した現在再発もなく経過良好である。

結 語

1. 44歳女性の右下唇に発生した脂肪腫の1例を経験したのでその概要を報告した。
2. 1935年より1984年までの50年間の本邦で報告された脂肪腫157例について文献的考察を行った。

なお、本論文の要旨は、昭和59年7月21日第22回口腔外科学会北日本地方会(札幌)において発表した。

引 用 文 献

- 1) Visscher, G.A.M.: Lipomas and fibrolipomas of the oral cavity. J max fac surg 10: 177-181 1982.
- 2) Geschickter, C.F.: Lipoid tumors. Am J Cancer 21: 617 1934.
- 3) Simpson, H.E.: Lipoma of oral cavity. Oral Surg 12: 349-532 1959.
- 4) Bertellie, A.P.: Uncommon tumors of the tongue (lipoma and leiomyofibroma). Oral Surg 19: 771-775 1965.
- 5) Wehrle, A.P. and Emmings, F.G.: Lipoma of the oral cavity: Report of four cases. Oral Surg 20: 138 1965.
- 6) 朱雀直道, 亀山忠光, 他: 粘膜下に発生した脂肪腫の2症例. 口科誌 16: 499-504 1967.
- 7) 八重垣健, 亀山忠光, 他: 舌にみられた脂肪腫の1例. 日口外誌 26: 1563-1567 1980.
- 8) 中村 繁, 堂原義美, 他: 上唇部に発生した巨大な脂肪腫の1例. 口科誌 31: 438-444 1982.
- 9) 小野史郎: 口腔領域の腫瘍および嚢胞に関する統計的組織学的観察. 口外誌 5: 38 1959.
- 10) 橋本賢二, 武田義豊, 他: 口腔底脂肪腫の1例. 日口外誌 23: 837-841 1977.
- 11) 久野吉雄, 佐藤田鶴子, 他: 頬粘膜に発生した脂肪腫の1症例について. 歯学 67: 388-392

- 1978.
- 12) 鶴野一洋, 堂原義美, 他: 軟口蓋鼻咽腔部に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 27: 1052-1055 1981.
- 13) 千葉博茂, 葛井 正, 他: オトガイ下部に発生した脂肪腫の1症例. 口科誌 31: 102-107 1982.
- 14) 高橋忠彦: 舌脂肪腫の2例(抄). 日耳鼻 68: 1063 1965.
- 15) 田中大順, 山本悦秀, 他: 口腔領域に発生した脂肪腫8例の臨床的観察. 日口外誌 26: 1068-1073 1980.
- 16) 小川克二: 舌脂肪腫の1症例(抄). 日耳鼻 66: 1580 1963.
- 17) 横井 稔: 口唇脂肪腫の1例, 大日本耳鼻咽喉科学会会報 41: 1554-1556 1935.
- 18) 庄内晃二, 内山敏子, 他: 下口唇粘膜部に発生した脂肪腫の1例について(抄). 口科誌 22: 249 1973.
- 19) 倉地洋一, 立川哲彦, 他: 下口唇に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 26: 209-214 1980.
- 20) 野村 篤, 久野吉雄, 他: 下口唇に発生した脂肪腫の1症例について(抄). 日口外誌 26: 523 1980.
- 21) Quinn, T.H.: Lipoma of the oral labial vestibule. Oral Surg 2: 723-725 1949.
- 22) Turner, H.: Lipoma of the lip: Report of a case. Oral Surg 9: 376-379 1956.
- 23) Colby, R.A. and Kerr, D.A., Robinson H.B.G.: Color atlas of oral pathology. 139 T.B., Lippincott Co., Philadelphia 1961.
- 24) Orlean, S.L.: Lipoma, benign tumor of soft oral structure: Report of a case. Oral Surg 14: 1004-1008 1961.
- 25) Mc Andrew, P.G. and Greenspan, J.S.: Lipoma of lip with cantilage formation. Brit dent J 6: 239-240 1976.
- 26) Allard, R.H.B., Blok, P., et al.: Oral lipomas with osseous and chondrous metaplasia: report of two cases, J of Oral Path 11: 18-25 1982.
- 27) Correll, R.W., Wescott, W.B., et al.: Nonulcerated, sessile nodule of the lower lip, JADA 104: 206-208 1982.
- 28) 高崎琢男, 浅原走男: 口腔ノ後半部ヲ充タセル巨大ナル脂肪腫ノ1例. 耳喉 10: 436-438 1937.
- 29) 赤崎兼義: 病理学総論. 第10版, 南山堂, 東京, 1973, 344頁.
- 30) 石川梧朗, 秋吉正豊: 口腔病理学Ⅱ. 第6刷, 永末書店, 京都, 1979, 987頁.
- 31) Brunce, K.W.: Lipoma of the oral cavity: report of three cases, Oral Surg 7: 390 1954.
- 32) Bergenholz, A., Thilander, H., et al.: Lipoma of the oral cavity, Oral Surg 13: 767-774 1960.
- 33) 内田 稔, 園山 昇, 他: 左側頬粘膜部に発生した脂肪腫の1症例. 日口外誌 25: 714-718 1978.
- 34) Vaziranini, S.T. and Devone, D.T.: Fibrolipoma of the oral cavity, Oral Surg 11: 355-358 1958.
- 35) MacGreger, A.J., Dyson, D.P., et al.: Oral lipoma: A review of the literature and report of twelve new cases, Oral Surg 21 770-777 1966.
- 36) Sommerville, P. and Wakeley, C.: Lipomas, Lancet 2: 995-999 1952.
- 37) 岡本 治, 今井 悟, 他: 臨床診断において皮様嚢胞と誤診した脂肪腫の1例. 歯科学報 63: 749-750 1963.
- 38) 久保倉弘孝, 藤田浄秀, 他: 顎下部脂肪腫の2例. 日口外誌 30: 1032-1038 1984.